

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	京都産業大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	キョウトサンギョウダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	■むすびわざコーオププログラム
	学部・研究科等名	経済学部、経営学部、法学部、共通教育推進機構
	担当教職員名・役職	■教員:4名東田晋三(経営学部)、田中寧(経済学部)、松高政(経営学部)、中谷真憲(法学部) ■職員:キャリア教育研究センター:5名松本 翔伍、竹中 好恵、西村 俊介、佐々木 歩、平 春菜
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	19
	受入企業等数	8
	受入企業等名	カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)、京都信用金庫、(株)京都パープルサンガ、(株)ファーストリテイリング、(株)堀場製作所、丸善雄松堂(株)、他2社
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ、2.有給インターンシップ、3.海外インターンシップ、4.他県をまたぐ広域インターンシップ、6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ、8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事、2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業等における業務への従事のほか、実習先にて学生が課題を発見し、解決策を考え提案する等、社員の一員として積極的な姿勢で業務に従事している。具体的には、精密機械メーカーでは「チーム間のコミュニケーションに関するアンケート・ヒアリング、運用マニュアル作成」、プロスポーツ運営企業では「ホームゲームイベントの企画・実行」、流通・情報企業では「貸会議室利用率アップの企画提案、利用マニュアル作成」を行った。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している、3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している、6.当該インターンシップは、選択科目として実施している、7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次・3年次・4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	38単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	経済・経営・法学部生を対象に選択科目として開講している、2~4年次の3年間一貫型教育プログラムである。特徴は、3年次春学期実施の企業・団体等で社員と共に働く15週間の長期有給インターンシップで、学内では専門教育とキャリア形成支援教育との学びを融合し、企業担当者とも密に接する中で授業が進行される。2年次の1年を事前学習期間とし、3年次秋学期及び4年次を事後学習期間として振り返り、卒業研究までを行う。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている、2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている、3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている、4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている、2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている、3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している、2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	目的・目標の設定、実行方針と実行項目の策定、振り返りと問題発見、行動規範の設定、論理的コミュニケーション(書く、話す)、情報分析と編集、表現力ある日本語運用、体験的チームワーク、プレゼンテーション、スピーチ、HP&映像制作(主にコンセプトワーク)を行う。教員からの具体的な指示はなく、自ら学ぶ姿勢を獲得し、個性と社会性を身に付け「学ぶ」ことの楽しさを知ると同時に、職場での社会人の考え方や方法を学ぶ。

	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	実習期間中の専門講義で学んだキャリア理論を復習しながら、卒業後の人生を具体的に検討すると同時に、より良いキャリア・プランを設計するために、残りの大学生活をどう過ごすのかを検討する。また、卒業研究に向けて、本プログラムで学んだことを再度復習し、実習の成果をベースに「自己理解」「調和と意思決定」「社会と向き合う」「行動」の4つの研究フレームについて、クラス全体の知識レベルの向上に取り組む。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	学生の実習期間中に企業を訪問し、企業担当者に「学生の取り組み状況」等をヒアリングした後、実習生が訪問先で実習している際は、「実習内容」「業務の進捗状況」「実習における学び」等についてヒアリングをしている。また、週に1度は実習中の学生が大学に集い(海外で実習中の学生についてはSkypeやFacetimeを利用して参加)、現状を共有する時間を設けることで学びの深化を促している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている。3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習前後に独自調査を実施しており、主な調査項目は、事前学習時は「授業理解・満足度とその理由」、実習中は「実習の自己評価とその理由、期間・業務難易度等について」、事後学習時は「授業理解・満足度とその理由」である。また、実習前後でプログラムへの期待について、比較調査を実施している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 実施期間4ヵ月程度
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)		
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実施期間4ヶ月程度の期間で週3日学生を実習に送り出している。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとつての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業開拓時に、教育プログラムの内容を企業側に丁寧に説明し、「一緒に学生を育てる願い」に賛同いただいた企業にのみ学生の受け入れをお願いしている。また、3年次春学期の実習期間中の受け入れ時のみならず、プログラム開始の2年次春学期から修了の4年次秋学期まで、都度、企業担当者には大学へ足を運んでいただき、学生への指導やプログラムに関する意見交換等にも協力いただいている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/
問い合わせ先	大学等名	京都産業大学
	担当部署名	キャリア教育研究センター
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	075-705-1754
	メールアドレス	cwie-center@star.kyoto-su.ac.jp